

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館1・2 (北札内ふれあい館1)		
所在地	中川郡幕別町札内新北町77-5		
自己評価作成日	令和 2年11月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700807-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700807-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和2年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を深く理解し、ひとりひとりのニーズに合わせたケアを実践し、住み慣れた地域で安心して穏やかに暮らせるように支援しています。ホーム内は四季を感じられるような環境づくりに努め、季節の花を飾ったり、折り紙や塗り絵で創作した作品の展示や写真などを飾り、楽しめるように工夫しています。リビングでは好きなテレビを観たり、ゲームをしたりしてそれぞれが好きなことを意欲的にできるようにしています。又、安全に生き生きと暮らしていただくために毎日の健康管理や運動を行い、徹底した感染対策を行っています。入浴は天然モール温泉を使用し、「体の芯から温まる」と喜ばれています。職員は理念である「優しい心、寄り添う心でその人らしさを大切にケア」を心がけて明るい笑顔で接しています。又、年2回の防災避難訓練を実施しております。併設するシニアマンションの方々とのふれあいやボランティアの来訪などを通して地域の人々と交流がとれるよう努めています。ご家族様とも連携を図り、健康管理などの情報共有を行い、安心できる施設運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は幕別町中心の北西に位置し、隣には母体法人が運営するシニアマンションがある静かな住宅地に立地している。法人は多くの福祉施設等を運営し、各種委員会(身体拘束廃止、虐待防止・事故等)を設置し、日頃から職員研修、災害対策などで事業所同士で連携し事例を共有しながら質の高いケアに努めている。共用空間は明るく清潔感があり、コロナ禍により温度と湿度管理や換気、アルコール消毒と徹底して感染症予防し、利用者の健康管理に努めている。居間には季節感ある飾り付けや行事写真が掲示されている。また、利用者各々がソファで寛いだり、テレビを見たり、ぬり絵をしたりと、安心しながら過ごして居る。新たな事業所理念は全職員が日々のケアや利用者の生活を鑑みながら作成され、質の高いケアを支える理念となっている。地域住民との交流やボランティア訪問などは、コロナ禍により自粛しているが、利用者や職員はコロナ禍が収まり、早く元の状況に戻って交流出来る事を願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。事業所独自の理念を作り、職員は理念を共有し、日々実践に努めている。	職員全員で作った新たな事業所理念はスタッフ会議時に全員で唱和し、日々のケアに反映させている。また、職員が安心して働ける職場作りは、理念の実践の礎と考えている				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域町内会に加入し、町内会行事やゴミ拾い清掃等のに参加し交流を図っている。定期的に地域住民のボランティアの訪問があり、互いに喜ばれている。防災訓練では地域の住民の協力を得ている。	積極的に参加し交流していた町内会行事や防災訓練での住民協力も今年は全てコロナ禍により中止している。隣接するシニアマンションの住民とは感染症予防を行いながら交流している。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が行う夏祭りに町内会員を招待し、交流を図るよう努めている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催し運営状況や行事報告、事故報告、防災訓練などを報告して意見交換をし運営に反映できるように努めている。同時に身体拘束適正化委員会も行われている。	会議は2か月に1度開催し、町内会長や民生委員、行政担当、家族が参加していたが、今年はコロナ禍により職員による書面会議を行っている。行事報告やヒヤリハット報告、身体拘束適正化委員会等報告をまとめ、外部参加者に発送し、意見や要望を確認し運営に反映させている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し、運営上の疑問等には積極的に相談しケアの向上に努めている。	行政担当者から施設の空床状況や業務状況等について情報交換し、意見や助言を得ている。また、生活保護の利用者については担当のケースワーカーと病状や病院受診について常に情報を共有している。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修において報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。	法人主催で年4回開催の身体拘束廃止推進委員会に参加している。内部研修で身体拘束について職員全体で学び、スピーチロックについても原因と対策を職員全員で意見を出し合い検討し、日々拘束について理解しながら拘束しないケアに努めている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修にて報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。					

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っているが、制度上困難な事項が多く、活用されていない。今後必要に応じ対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行う。解約時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。ご意見箱を設置し、意見を受けている。家族の来訪時に話しやすい雰囲気作りで努め意見や要望を聴き入れるようにしている。	家族面会はコロナ感染予防を慎重に検討し、玄関先でビニール越しに利用者の体調や時間等を配慮して行っている。その際些細な意見や小さな要望も聞き取り、得られた情報を職員で共有しながら運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部へ上げていく体制で反映している。又、職員から個別に相談や要望を聞く機会をつくれるよう心がけている。	個別で随時ホーム長と相談できる環境を作っている。普段から管理者は常に話しやすい雰囲気づくりをし、特に、コロナ感染予防対策についても早期から職員が意見やアイデアを出し合い改善し運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている。又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施。全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくり又相互評価事業により評価を受け、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をしていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分出来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならないよう訪問をしていただき、又月一回のおたより等で利用者の現状報告親密な関係を築く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、親戚との面会ができるように 環境を整えて対応、支援している。	家族とはビニール越しの短時間面談を行っており、遠方や面会に来れない家族には手紙や電話を積極的に利用しながら、馴染みの関係を継続できるよう努めている。訪問理美容は定期的に馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでも生活を多くお互いに支えあえる環境作りに努めている。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極めるように努め、困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	ホーム長は毎日1人の利用者と会話しながら意向や要望を聞くようにし、会議等で職員と共有し様々なケアの場面に活かしている。特に楽しみの食事については「食べたい物」の希望を多く聞き取り叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの家具、什器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力を発揮してもらえるように努めている。又、外部からのマッサージも取り入れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が6か月毎に作成している。利用者や家族の同意を得ている。状態変化が生じた場合はその都度見直しをしている。	介護計画は利用者と家族の意見や要望を得ながら半年に1度見直しを行い、利用者と家族に説明し同意を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内行事参加、ふれあい便りの配布等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応している。又医療連携をしている医療機関との連携を密にしている。受診結果は家族に報告し、受診記録に記載し全職員で共有している。	利用者や家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。受診は家族が同行するが、職員が同行する場合もある。訪問診療、訪問歯科診療、訪問看護、訪問マッサージ等様々な医療と連携を図り、利用者の健康管理を支援している。	

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている、又看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ態勢を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い、説明をお互いに方針を共有し支援に取り組むよう努めている。ターミナルケアの研修を行い、終末期への理解を深めている。	入所時に利用者と家族に重度化した場合や終末期のあり方について説明し同意を得ている。看護師や協力医療機関とは24時間連携できる体制が整っており、重度化した際は、随時家族と話し合い、その都度状態に合わせて看取りの指針を説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。隣接しているシニアマンションとの協力体制を進めている。	消防署指導の下、年2回の棒材訓練を、地域住民の協力と隣接のシニアマンション住民の協力を得ながら実施しているが、コロナ禍により消防職員や地域住民等の参加は自粛している。	水害や地震などの複合災害について、マニュアルの整備と備蓄状況などの確認することを期待する。特に冬季間での停電含む災害にどう対応していくか、内部研修を実施しながら複合災害に向けた取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉つかいには十分に気をつけた対応をしている。	利用者一人ひとりに寄り添い、性格や個性を理解しながら、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をするには個々の能力に見合った選択の場を設け希望が叶うよう働き掛けをしている。時々、ご家族の協力もお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事ではなく、週に1度は利用者の希望に応じて献立をしている。又個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。	法人の栄養士がメニュー作成し食材が届き、職員と利用者が一緒に和やかに準備し食事や片付けなどを行っている。自由メニューの日は利用者の希望を取り入れたたり、誕生食を作ったりと、食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても個々にチェックし確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後1人1人本人の能力に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している、又本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハパン、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの自立排泄を促している。下着や衛生用品の使用は随時検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している。又個々の身体に応じ運動をし健康状態を保つようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調などに配慮しながら、利用者の希望等を尊重し安心して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。天然モール温泉を利用している。	天然モール温泉かけ流しで週2回以上の入浴ができ、利用者には好評である。モール温泉独特の滑りやすさはあるが、ゆっくり時間をかけて入浴している。拒否する利用者も稀にいますが状況に合わせた支援をしながら楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等に応じ休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医との相談による支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活ができるよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためないように利用者の希望にそって散歩、買い物等を行っている。又行事計画により、外食やドライブ等気分転換が図れるよう支援している。	例年は年3回の外食、ドライブなど定期的な行事を行っていたが、コロナ感染予防対策強化のため外出はほとんど自粛している。ストレスをためないようにカラオケ・ゲームなど室内でも楽しくすごせるようなことを職員で知恵を絞り工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いについては基本的に個人が管理することとしているが、個々の能力に応じて金銭管理の困難な場合はホームで管理支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じいつでも連絡可能な支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、いつも清潔にし、採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地の良い共用空間づくりに努めている。又、折り紙等の作品も展示している。	共用空間は採光が入り明るく、壁面には季節感を感じさせる飾り付けがされ、利用者の絵の作品も飾られるなど、居心地の良い空間を醸し出している。温度や湿度の管理や換気、アルコール消毒と感染症予防に務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、それぞれ好きな場所で過ごせるよう支援している。又、会話やビデオを楽しめるよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んだり、家族の写真が飾られたりと今までの生活と変化がないよう配慮し居心地良く暮らせるよう支援している。	利用者と家族はテレビや仏壇、花、家族の写真など馴染みで大切な物を持ち込み居心地よく過ごせる様配慮されている。手作りの作品を飾りながら個別性のある居室作りをしている利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立にした生活をするためできるだけ個々の能力を生かし自立した生活が送れるよう支援している。			